

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201716		
法人名	医療法人社団 秀慈会		
事業所名	グループホーム 桃源の丘(1階)		
所在地	静岡県静岡市駿河区国吉田6-6-6		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaj.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=2295300095-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

寄り添う介護をテーマにして施設側の都合に合わせるのではなく、各利用者様の個別ケアを考えて対応しております。ご自宅で生活しているような雰囲気でも利用者様はもちろん職員も笑顔が多い施設を目指しております。医療法人 秀慈会のグループ事業所として医療面のバックアップもあり、認知症対応のできるベテラン職員も多く配置しておりご家族様も安心していただける環境だと思います。最近ではコロナ禍にて外出や家族と会える機会も減っておりますが、利用者様が寂しい思いをしないよう施設内で行える行事やレクリエーションで対応しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の立ち上げに関わった新管理者の下、論語の教えから成る法人の家訓「利他の心をもって職員間の和を～」を柱に人間力を磨き、どのような場合にも利用者様に寄り添うことができる職員の育成を目指しています。毎月のカンファレンスで意見が対立した時には「利用者がどうしたいのか」「家族は何を願っているか」に立ち返り、利用者担当職員は「本人の代弁者」「利用者のスペシャリスト」として本音が聞けるまで信頼関係を構築できるよう働きかけて「BPSDが軽減した」「愚痴を言ってくれるようになった」という手応えを掴み、「～がしたいを聴きとれた」ことが看取りにまで活かされている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	秀慈会の家訓がR3年8月より新しくなりました。理念と家訓に基づき新たに桃源の丘の方針、方向性を具体化に、皆で共有し実践につなげています。	「全職員の物心両面の幸福の追求」「利他の心をもって職員間の和を作為する」論語の教えをもとにした法人の家訓を、まずは管理者が学ぶ機会を週に一度設け、人間力を磨き、どのような場合にも利用者に寄り添うことができる職員の育成を目指しています。	新しい家訓が浸透し、どのように実践されているか振り返りを持つことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍もあり、利用者様が他者との交流の場が減ってしまっていますが、周辺を散歩したりした時に、近所の方に挨拶したりする程度です。今後の情勢を踏まえて交流を増やしていきます。	今年度交替した管理者は自治会長、民生委員に着任の挨拶に出向いています。新型コロナウイルスの流行により交流が途絶えています、通りがかりに事業所玄関先のプランターの花々を愛でる人や、散歩に出かけた際すれ違う人々と挨拶を交わしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍もあり、地域交流があまりできていない現状です。運営推進会議も、書面での報告のみとなり、今後情勢を見て地域貢献に協力できるよう努力していきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ禍のため運営推進会議が書面での報告のみとなり、直接意見をいただける機会が少なくなり残念ですが、事業所内で意見を出し合いサービス向上に繋げております。	「運営推進会議中止のご案内」通知とともに、月ごとの利用状況、事故報告及び今後の対策案を報告し、市介護保険課、地域包括、自治会長へFAX送信していますが、意見や要望をもらう仕組みには至っていません。	書面報告において、数字のみでは事業所の様子が見えにくい活動報告等を添え、質問や意見を聞く仕組みがあるとなお良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点を問い合わせる時や運推進会議の資料をFAXにて送付しております。今年度は法改正の加算申告について、かなり問い合わせしました。	電話による質問にも丁寧に応じてもらえ、地域包括支援センターからの紹介により入居した例もあり、問い合わせにも積極的に応じています。介護認定調査に訪れた調査員が、利用者の元気な様子に安心したというエピソードもあり事業所の取組みが評価されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度は静岡県の身体拘束0宣言をしており、身体拘束0に近づけるよう、日々努力しております。緊急、やむを得ない拘束については家族に説明し同意いただいております。	緊急やむを得ない状況で身体拘束を行うことになった2名については、専用の様式を用いてその状況を記録し、毎月のモニタリングと早期解除に向けた方法を検討して、1名は解除できています。関わりが増えたことで言葉の出にくさが回復し、会話ができるまでになっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段より虐待についてはスタッフ全員で気を付けています。身体のみでなく、言葉の虐待、性的虐待ネグレスト、スピーチロックなどないように注意を払っております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の親族や身元引受人様への定期的連絡を行っている。物品の補充や面会も必要に応じ行っています。遠方や、仕事や家庭の事情も把握しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくり丁寧に説明して不安や疑問点や、わからない事を尋ね十分に理解していただくよう努めています。不明な点があれば、いつでも管理者が窓口になり、対応しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のモニタリングや随時カンファレンスを行い、変更点や問題点、家族からの意見があれば職員で共有しております。	今年度より2ヶ月毎「桃源の丘通信」を発行し、おやつ作りや敬老会など事業所内行事での表情豊かな18名の写真を載せて郵送しています。アンケートからも「笑顔が見られて安心してお願いできている」「落ち着いて生活できている」との声が多数を占めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があれば、その都度、話を聞く、管理者からも職員の状況を気にして話しかけるよう対応しております。相談しやすい関係作りに努めている。	月に一度のフロア会議で、ユニット毎にモニタリングとカンファレンスを行っています。食事、身体拘束廃止、事故防止、入浴、排泄、レク、感染症対策、記録等の係を輪番で受持ち、多面的な視点が養われています。管理者は半年毎の個別面談で心身のフォローに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回の自己評価、ヒアリングを実施している。各自の思い、考え方を尊重し、感謝の気持ちを伝え、より一層やりがいや、向上心を持って働けるよう、職場環境の整備に努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のキャリアパスの研修参加、事業所内の勉強会を行い、他部署との連携や、スキルアップに繋げている。今年度はコロナ禍のため外部の研修等には参加しにくい状況でしたが、今後は積極的に参加していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟している。同業他社や、ケアマネ、認定調査員、福祉用具の方等、交流を図り、情報交換している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に得た情報をスタッフ全員で共有する。安心して不安なく生活していただけるよう環境作り、居室や座席など考慮してじっくり本人との信頼関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族の事情、不安、要望を聞いておく各利用者様に担当スタッフがついており、日常の変化、健康状態なども家族に連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況において優先順位を考えた対応をしている。 今までの生活歴や、環境を確認したうえ、施設で対応可能なものを実現するよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であり、尊厳を大事にし必要に応じて、職員が手伝う。出来ることは継続して行っていただき。生きがいを持って生活していただく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため面会の機会が大幅に減りましたが、繋がりを閉ざさぬよう家族への報告、連絡相談を行い利用者様にも家族の話をして安心していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、面会、外出、外泊等、少なくなったが、今後情勢を見て、機会を増やせるよう努力する。	担当職員との協同作業で、宛名書きやスタンプ・シールの装飾が施された年賀状・暑中見舞いを、家族や大切な人へ全員が発送しています。家庭菜園での野菜作りで熟練の腕を発揮したり、慣れた手つきで調理の下ごしらえをするなどその人らしさを大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの座席配置を考え、職員が間に入り、利用者様同士の架け橋となり、孤立せずに仲良く会話されている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の病院や施設に移った場合や外部に入院した場合も、電話連絡や面会、お見舞いをし、相談も受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回のアセスメント時に本人の思いを伺い、それ以降もカンファレンスを通したり、日々の生活の様子を観察し、随時思いを伺い検討している。	利用者担当を決め「本人の代弁者」「利用者のスペシャリスト」として、居室の整理整頓から内服薬までを掌握し、本音が聞ける信頼関係を構築できるよう働きかけ、「愚痴を言ってくれるようになった」「～がしたいを聴きとれた」という手応えがカンファレンスで聞かれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	若い時からの習慣や、自宅に近い環境作りに配慮し、対応している。本人や家族からの聞き取りを大事にして情報収集に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自由に安全に一日を過ごせるように職員がゆったりとした環境を作り、その中で心身状態の早期発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のモニタリング実施。担当者を中心に本人、家族、主治医、理学療法士、看護師、薬剤師の意見も取り入れ、チーム全体で意見をだし取り組んでいる。	フロア会議でのカンファレンスでは利用者担当職員が進行役を務めて課題を共有し、改善策を話合っています。「身振り、手振りで体操に導く」「誘いに応じない時でも隣で一緒に参加を促し寄り添う」など現状に即した計画となっていることを視認しました。	サービス内容が確実に提供されていることがわかる介護記録となる事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録やヒヤリハット、インシデントなど多く取り上げ、職員間で情報共有しながら気付かなかった事を発見し意識向上に努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じ法人内の病院に付添いや送迎で対応している。今年度はコロナワクチンの接種も法人内にて対応。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	S型デイサービスの参加や施設周辺やお寺を散歩している。食事レクなどで必要な食材を近所のスーパーへ買い物に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診療にて系列の病院より医師が診察にきております。緊急時も主治医との連絡がとれるようになっております。外部への受診は家族にお願いしており、歯科や眼科の往診をお願いする場合があります。	母体病院が協力医となっていて全員が変更しています。訪問診療には管理者か副主任が付き添い、結果は個人ファイルの介護経過に記録しています。週に一度の訪問看護で健康相談を行い、24時間のバックアップがある安心の医療体制となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の定期訪問看護にて状況を伝え、アドバイスをいただく。緊急時にも訪問看護への電話連絡や隣接している看多機の看護師に連絡して対応していただくようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への面会やお見舞い、ご家族への連絡で状況を把握する。医療機関やご家族との情報共有に努める。退院後の受け入れや情報共有もスムーズに行えるよう、医療機関の相談員とも連携をとる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の考えや希望を伺ったうえで法人内のできる事をお伝えする。系列の病院への入院やグループホームでの看取りも対応できることを伝える。 看取りの場合、訪問看護、主治医との連携をとりチームで支援に取り組む。	今年度の看取りでは痛みの緩和と共に「ラーメンが食べたい」「桜が見たい」思いに添い、「母に会いたい」希望を叶えるため、他施設にいる100歳の母親を招くに至り、お見送り後のカンファレンスでは「不安だったが看取りに取組んでよかった」との達成感を分かち合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送時のマニュアルを作成し掲示してある。 初期対応や応急処置に関して看護師より指導を受け対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での防災訓練を行い。避難の手順、停電時に備え、ランタンや発電機、カセットコンロを用意災害に備え、飲料水、非常食を備蓄する。	日中、夜間想定と、年2回の法定訓練を実施し、通報訓練、消火訓練、屋外駐車場への避難誘導を行っています。過去に停電を経験していることから、発電機始動方法まで余念がありません。非常食の在庫一覧を作成し、賞味期限が迫ったものは試食しています。	備蓄については現在一日分が保管されているのみですが、「行政支援開始の目安である被災後3日目まで自力で業務継続するための備蓄が必要」とされているため、法人との協力体制等を含め明確に整備されることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人やご家族の想いを尊重し、どうすれば安心・安全に過ごして頂けるか考える。居室にはご本人や家族が希望するものを置いてもらっている。	男性職員に入浴介助されることを「しようがないね…」と言って泣いていた女性利用者の事例から「自分に置き替えて考えよう」と話し合い、業務優先で遂行される入浴・排泄介助への意識に、羞恥心への配慮という一石を投じて是正しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの声掛けにより、一方的に介護や介助を行うのではなく、ご本人に選択の機会を与えている家訓のとおり、利用者様、第一に考えて行動する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアでの座席の配置や個々のADLに合わせた活動など、希望に沿うように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容、整髪や入浴や排せつ後の衣類の身だしなみを整える。外出時の服装にも配慮し、月に一度ビューティヘルパーにて希望者は整髪してもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度、食事レクやおやつレクを取り入れ、調理や盛り付けに利用者様が参加している。普段の食事でも温かいものは、温かく、冷たいものは冷やして提供するよう、美味しく食べてもらえるよう工夫している。	業者から届けられた調理済みのメニューを盛り付けていますが、食事レクでは郷土料理やおでん、ナポリタンなど好みを活かし、看取りにおいては法人の専門職と連携して家族了承の下、リクエストされたラーメンを提供し、スープまで飲み干す満足感を味わっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録をしている。必要に応じて食形態に合わせた食事や、水分にトロミをつけて提供している。食事介助する場合もあるが、基本的に自立できるよう、食器やスプーンなどで本人にあったものを使用して召し上がっていただく。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラッシング後に磨き残しを確認する。義歯は洗浄しこちらで管理する。自分で歯磨きできる方は出来る限り自立で行っていただき、必要に応じて介助する。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を記録している。定時誘導ではなく一人ひとりのペースに合わせて、可能な限りトイレで排泄できるよう取り組んでいる。尊厳、自尊心を配慮した対応を心掛けている。	利尿剤の服用で失敗が増え、汚染した排泄用品を隠そうとちぎってしまう人に、多少の失敗があっても布パンツに替えてみようとしたことが功を奏し、コスト削減にもつながった事例や、排便リズムを把握したことで便秘が解消し、穏やかさを取り戻した事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便パターンを理解している。水分補給や運動(体操、散歩など)をしたり、乳製品、乳飲料等、個別に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の誘いを拒否されれば、無理に行わず、一人ひとりの希望を優先する。脱衣所、浴室、入浴剤等工夫しながらリラックスした気持ちで入浴いただいている。	週に2回、午前を中心に入浴しています。入浴委員が企画した「温泉月間」は好評で、温泉風暖簾をかけて雰囲気を出し、「〇〇温泉の湯」の入浴剤を多数揃え「温泉に行こう」と声かけすることで気持ちよく誘いに応じてもらえています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息を希望されれば、否定せず、ゆっくり休んでいただいております。ある程度の時間になればこちらから一度、声掛けをして時間をお伝えして対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が内服している薬を理解し、日々の状態にも注意して変化があれば早期発見できるように努めており、訪問診療、訪問看護で診察やアドバイスをいただき、内服の調整を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食料品の検品やビニール袋洗濯物を畳んでもらったり、生活の中でお手伝いいただけることや季節の飾りつけの作品作りを行っていただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍のため機会は減りましたが、行事計画を立てて外出の機会を設け、季節を感じたり気分転換をはかっています。車イスに対応した車両も使用できるよう手配したりもしている。	法人のリフト車を借りて4月には県立美術館の桜、6月には二つ池の紫陽花を見に、降りないドライブを実行しています。散歩は午後、マンツーマンで出かけていますが、坂道が多い立地でもあり、玄関前での日向ぼっこで気分転換を図る人もいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は預かってはしません。高額なお金を持っている方も、おりません。小銭程度のお金を所持している方は数人おります。以前飴玉、みかんなどを買いにいったことがあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いは全員が出しております。それ以外でも家族の方から手紙が来たら返信することもあり、職員が手伝って書いています。必要に応じて電話で話す場合もあり、臨機応変に対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンの開け閉めで日光調整。エアコン調整などで室温もコントロールしている。不快にならないよう清掃にも努め、天気の良い日は窓や玄関を開けて換気する。	24時間オゾン発生装置や空気清浄機、1日5回のオゾン水噴霧で感染対策を講じ、薬剤を使ってこまめにコンタクトポイントを清掃しています。プランターで花や野菜を育てて鑑賞したり、壁面はレク委員を中心に毎月利用者と飾付けするなど季節感を演出しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置は工夫している。気の合った利用者様は隣に座ったり、コミュニケーションが苦手な方でも共有スペースにて楽しめるよう居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用したものの持ち込み。ダンスや仏壇、ぬいぐるみなど配置。家族やペットの写真やレクで作ったカレンダーや飾りなど居室に掲示している。	クローゼット、床頭台、低床ベッド、エアコンを備付け、自宅の雰囲気でもらえるよう好きなものを持ち込んでもらっています。居室でゆったりテレビを見る人や、朝食後に仏壇へ水を手向けてお経を唱える人もあり、思い思いの空間が保たれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内と居室はほぼバリアフリーの環境のためつまずきにくい環境で自立して歩行できる。ベッドも低床ベッドを用意し、自由かつ安全が実現できるよう取り組んでいる。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201716		
法人名	医療法人社団 秀慈会		
事業所名	グループホーム 桃源の丘(2階)		
所在地	静岡県静岡市駿河区国吉田6-6-6		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=2295300095-00&serviceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

寄り添う介護をテーマにして施設側の都合に合わせるのではなく、各利用者様の個別ケアを考えて対応しております。ご自宅で生活しているような雰囲気でも利用者様はもちろん職員も笑顔が多い施設を目指しております。医療法人 秀慈会のグループ事業所として医療面のバックアップもあり、認知症対応のできるベテラン職員も多く配置しておりご家族様も安心していただける環境だと思います。最近ではコロナ禍にて外出や家族と会える機会も減っておりますが、利用者様が寂しい思いをしないよう施設内で行える行事やレクリエーションで対応しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の立ち上げに関わった新管理者の下、論語の教えから成る法人の家訓「利他の心をもって職員間の和を～」を柱に人間力を磨き、どのような場合にも利用者様に寄り添うことができる職員の育成を目指しています。毎月のカンファレンスで意見が対立した時には「利用者がどうしたいのか」「家族は何を願っているか」に立ち返り、利用者担当職員は「本人の代弁者」「利用者のスペシャリスト」として本音が聞けるまで信頼関係を構築できるよう働きかけて「BPSDが軽減した」「愚痴を言ってくれるようになった」という手応えを掴み、「～がしたいを聞きとれた」ことが看取りにまで活かされている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	秀慈会の家訓がR3年8月より新しくなりました。理念と家訓に基づき新たに桃源の丘の方針、方向性を具体化にし、皆で共有し実践につなげています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍もあり、利用者様が他者との交流の場が減ってしまっていますが、周辺を散歩したりした時に、近所の方に挨拶したりする程度です。今後の情勢を踏まえて交流を増やしていきます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍もあり、地域交流があまりできていない現状です。運営推進会議も、書面での報告のみとなり、今後情勢を見て地域貢献に協力できるよう努力していきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ禍のため運営推進会議が書面での報告のみとなり、直接意見をいただける機会が少なくなり残念ですが、事業所内で意見を出し合いサービス向上に繋げております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点を問い合わせる時や運推進会議の資料をFAXにて送付しております。今年度は法改正の加算申告について、かなり問い合わせしました。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度は静岡県の身体拘束0宣言をしております、身体拘束0に近づけるよう、日々努力しております。緊急、やむを得ない拘束については家族に説明し同意いただいております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段より虐待についてはスタッフ全員で気を付けています。身体のみでなく、言葉の虐待、性的虐待ネグレスト、スピーチロックなどないように注意を払っております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の親族や身元引受人様への定期的連絡を行っている。物品の補充や面会も必要に応じ行っています。遠方や、仕事や家庭の事情も把握しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくり丁寧に説明して不安や疑問点や、わからない事を尋ね十分に理解していただくよう努めています。不明な点があれば、いつでも管理者が窓口になり、対応しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のモニタリングや随時カンファレンスを行い、変更点や問題点、家族からの意見があれば職員で共有しております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があれば、その都度、話を聞く、管理者からも職員の状況を気にして話しかけるよう対応しております。相談しやすい関係作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回の自己評価、ヒアリングを実施している。各自の思い、考え方を尊重し、感謝の気持ちを伝え、より一層やりがいや、向上心を持って働けるよう、職場環境の整備に努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のキャリアパスの研修参加、事業所内の勉強会を行い、他部署との連携や、スキルアップに繋げている。今年度はコロナ禍のため外部の研修等には参加しにくい状況でしたが、今後は積極的に参加していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟している。同業他社や、ケアマネ、認定調査員、福祉用具の方等、交流を図り、情報交換している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に得た情報をスタッフ全員で共有する。安心して不安なく生活していただけるよう環境作り、居室や座席など考慮してじっくり本人との信頼関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族の事情、不安、要望を聞いておく各利用者様に担当スタッフがついており、日常の変化、健康状態なども家族に連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況において優先順位を考えた対応をしている。今までの生活歴や、環境を確認したうえで、施設で対応可能なものを実現するよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であり、尊厳を大事にし必要に応じて、職員が手伝う。出来ることは継続して行っていただき。生きがいを持って生活していただく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため面会の機会が大幅に減りましたが、繋がりを閉ざさぬよう家族への報告、連絡相談を行い。利用者様にも家族の話をして安心していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、面会、外出、外泊等、少なくなったが、今後情勢を見て、機会を増やせるよう努力する。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの座席配置を考え、職員が間に入り、利用者様同士の架け橋となり、孤立せずに仲良く会話されている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の病院や施設に移った場合や外部に入院した場合も、電話連絡や面会、お見舞いをし、相談も受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回のアセスメント時に本人の思いを伺い、それ以降もカンファレンスを通したり、日々の生活の様子を観察し、随時思いを伺い検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	若い時からの習慣や、自宅に近い環境作りに配慮し、対応している。本人や家族からの聞き取りを大事にして情報収集に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自由に安全に一日を過ごせるように職員がゆったりとした環境を作り、その中で心身状態の早期発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のモニタリング実施。担当者を中心に本人、家族、主治医、理学療法士、看護師、薬剤師の意見も取り入れ、チーム全体で意見をだし取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録やヒヤリハット、インシデントなど多く取り上げ、職員間で情報共有しながら気付かなかった事を発見し意識向上に努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じ法人内の病院に付添いや送迎で対応している。今年度はコロナワクチンの接種も法人内にて対応。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	S型デイサービスの参加や施設周辺やお寺を散歩している。食事レクなどで必要な食材を近所のスーパーへ買い物に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診療にて系列の病院より医師が診察にきております。緊急時も主治医との連絡がとれるようになっております。外部への受診は家族にお願いしており、歯科や眼科の往診をお願いする場合があります。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の定期訪問看護にて状況を伝え、アドバイスをいただく。緊急時にも訪問看護への電話連絡や隣接している。看多機の看護師に連絡して対応していただくようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への面会やお見舞い、ご家族への連絡で状況を把握する。医療機関やご家族との情報共有に努める。退院後の受け入れや情報共有もスムーズに行えるよう、医療機関の相談員とも連携をとる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の考えや希望を伺ったうえで法人内のできる事をお伝えする。系列の病院への入院やグループホームでの看取りも対応できることを伝える。看取りの場合、訪問看護、主治医との連携をとりチームで支援に取り組む。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送慈のマニュアルを作成し掲示してある。初期対応や応急処置に関して看護師より指導を受け対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での防災訓練を行い。避難の手順、停電時に備え、ランタンや発電機、カセットコンロを用意災害に備え、飲料水、非常食を備蓄する。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人やご家族の想いを尊重し、どうすれば安心・安全に過ごして頂けるか考える。居室にはご本人や家族が希望するものを置いてもらっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの声掛けにより、一方的に介護や介助を行うのではなく、ご本人に選択の機会を与えている家訓のとおり、利用者様、第一に考えて行動する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアでの座席の配置や個々のADLに合わせた活動など、希望に沿うように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容、整髪や入浴や排せつ後の衣類の身だしなみを整える。外出時の服装にも配慮し、月に一度ビューティヘルパーにて希望者は整髪してもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度、食事レクやおやつレクを取り入れ、調理や盛り付けに利用者様が参加している。普段の食事も温かいものは、温かく、冷たいものは冷やして提供するよう、美味しく食べてもらえるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録をしている。必要に応じて食形態に合わせた食事や、水分にトロミをつけて提供している。食事介助する場合もあるが、基本的に自立できるよう、食器やスプーンなどで本人にあったものを使用して召し上がっていただく。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラッシング後に磨き残しを確認する。義歯は洗浄しこちらで管理する。自分で歯磨きできる方は出来る限り自立で行っていただき、必要に応じて介助する。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を記録している。定時誘導ではなく一人ひとりのペースに合わせ、可能な限りトイレで排泄できるよう取り組んでいる。尊厳、自尊心を配慮した対応を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便パターンを理解している。水分補給や運動(体操、散歩など)をしたり、乳製品、乳飲料等、個別に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の誘いを拒否されれば、無理に行わず、一人ひとりの希望を優先する。脱衣所、浴室、入浴剤等工夫しながらリラックスした気持ちで入浴いただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息を希望されれば、否定せず、ゆっくり休んでいただいております。ある程度の時間になればこちらから一度、声掛けをして時間をお伝えして対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が内服している薬を理解し、日々の状態にも注意して変化があれば早期発見できるように努めており、訪問診療、訪問看護で診察やアドバイスをいただき、内服の調整を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食料品の検品やビニール袋洗濯物を畳んでもらったり、生活の中でお手伝いいただけることや季節の飾りつけの作品作りを行っていただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍のため機会は減りましたが、行事計画を立てて外出の機会を設け、季節を感じたり気分転換をはかっています。車イスに対応した車両も使用できるよう手配したりもしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は預かってはしません。高額なお金を持っている方も、おりません。小銭程度のお金を所持している方は数人おります。以前飴玉、みかんなどを買いにいったことがあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いは全員が出しております。それ以外でも家族の方から手紙が来たら返信することもあり、職員が手伝って書いています。必要に応じて電話で話す場合もあり、臨機応変に対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンの開け閉めで日光調整。エアコン調整などで室温もコントロールしている。不快にならないよう清掃にも努め、天気の良い日は窓や玄関を開けて換気する。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置は工夫している。気の合った利用者様は隣に座ったり、コミュニケーションが苦手な方でも共有スペースにて楽しめるよう居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用したものの持ち込み。ダンスや仏壇、ぬいぐるみなど配置。家族やペットの写真やレクで作ったカレンダーや飾りなど居室に掲示している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内と居室はほぼバリアフリーの環境のためつまずきにくい環境で自立して歩行できる。ベッドも低床ベッドを用意し、自由かつ安全が実現できるよう取り組んでいる。		